

地理歴史科学習指導案

指導者 石川県立小松高等学校・教諭

指導日時・教室 平成16年5月20日 2限目 22H教室
対象生徒 普通科2年生40人(内訳 22H 40人)
科目名 世界史B(3単位)
使用教科書 『詳説世界史B』(山川出版社)

1 単元名 オリエントと地中海世界

2 単元(題材)の目標

- ① 古代史学習の第一歩として、他のどの地域よりも早くに本格的な文明を成立させたメソポタミアとエジプト、さらにその影響を受けつつ発展した後の欧米文明の基層となるギリシア・ローマの歴史を題材とすることにより、文明誕生の原因となる基本的要素や普遍的かつ個性的な文化について関心を持ち、意欲を持って学習活動に取り組む。
【関心・意欲・態度】
- ② 我が国を含む他地域の古代史に共通する政治(宗教的な背景を持つ神権政治など)や経済、文化の学習を通して、古代という時代そのものの特質について関心を持つとともに、それらの相違点についても比較分析する知的態度を養う。
【関心・意欲・態度】【知識・理解】
- ③ 古代的な価値のいくつか、近代や現代にダイレクトにつながる点(メソポタミアの法治主義やギリシアの民主政、ローマの共和政など)に注目し、人類の営みが様々な文化圏や時代の双方向的影響のプロセスで築かれてきた(築かれてゆく)ことを、現代社会が抱える様々な課題と関連づけて具体的に考えることができる。
【思考・判断】
- ④ 毎回の授業テーマについての論述や、定期的実施する図書室での調べ学習を通して、授業で身につけた知識を自分の考えや意見を表現する素材として実際に使用できるようにする。それによって、古代といういわば人類史のルーツに関する基礎的な知識を、身近な出来事や日々のニュースを客観的歴史的に分析・判断できる技能的なものに高める。
【技能・表現】

3 指導に当たって

- (1) 生徒の状況
世界史学習を始めたばかりということで、新鮮で意欲的に取り組む姿勢が強く見られる。ただし、外国地理については基本的事項についても知識が不足しているため、常にそれを補う工夫が必要である。
- (2) 指導方針・方法
近現代史と比較すると、古代史学習には物語的な楽しさがある。それは授業の中で、神話や伝説に触れたり、考古学上の謎に言及したりできることに由来するといえる。よって、アレクサンドロスやカエサル、クレオパトラなど、生徒にとっての「有名人」が登場する授業では、大胆に人物中心で説明することが有効な場合がある。またその際には、学習に臨む意欲や関心を高めるために、古代史の代表的な人物を取り上げ歴史的な名場面を再現している様々な映画のパンフレットをヴィジュアル教材として利用する。
学習のまとめとして、毎回の授業では中心テーマについての論述に取り組ませ、調査後には調査範囲内で自分が最も興味を持った題材(人物や時代、文化など)について調べ学習を行わせる。それらを通して、自ら考え、学ぶ力を培うと共に、授業の枠を越えた発展的な学びの機会を保障する。

4 単元(題材)の指導計画(総時数16時間)

第一次	古代オリエント	(5時間)
第二次	古代ギリシア	(6時間)
	第1時	エーゲ文明
	第2時	ポリスの民主政①
	第3時	ポリスの民主政②
	第4時	ギリシア文化……本時
第三次	古代ローマ	(5時間)

5 本時の指導計画(第一次第4時)

- (1) 本時のねらい
 - ① 古代史学習の一つの要として、後の欧米文明の基層となるギリシア文化を取り上げ、その個別性と同時に時代や地域を越えて維持される高い価値について関心を持ち、意欲を持って学習活動に取り組んでいる。
【関心・意欲・態度】
 - ② 現代の諸課題についての理解を深め、その解決の方策を探るために必須の教養であるギリシア哲学の知識を身につけ、同時に人生観や世界観、モラル等を構築しようとする知的態度を自分のものにする。
【知識・理解】【関心・意欲・態度】
 - ③ 授業テーマについての論述を通して、授業で身につけた知識を自分の考えや意見を表現する素材として実際に使用できるようになる。
【技能・表現】

(2) 準備・資料等

生徒に回覧する映画のパンフレット（「トロイ」、「王女メディア」）、絵本（『オデュッセイア』）、文庫本（『ソクラテスの弁明』）

(3) 本時の展開

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・支援	評価規準 (観点・評価方法)
導入 3分	学習内容の確認 (特に、授業の終わりに 論述する中心テーマ)	<ul style="list-style-type: none"> 配付プリントでテーマを確認し、資料集の該当ページを開く。 教科書でテーマに関する説明が書いている箇所を一人一文章で音読する 	<ul style="list-style-type: none"> 本時のテーマの意味や意義を伝える。 「哲学」の語義が「科学」と対称的な「万学」であり、それは全ての学問の根本や目的であることを理解させる。 	
展開 42分	<p>1 ギリシア文化の特色</p> <p>2 ギリシアの宗教と文学</p> <p>3 ギリシア哲学の発展</p> <p>4 その他のギリシア文化</p>	<ul style="list-style-type: none"> 板書のノート化をえける(全体)。 ギリシア文化が人間的で合理的な特色と、交易や市民生活の観察する。(全体)。 オリエントの超越的な神と異神の憎悪や嫉妬を人間解し、そこ合理的な分野に合理的な文化の特徴を感得する。 論述で使用するワードを整理しておく。自分も盛り込めるように最近のユース、経緯をたどる。観察する。 我が国の歴史的な建造物にもギリシア建築の影響が認められ、世界史を本位に位置付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ギリシア文化の特色とその時代性を説明する。それを浮き彫りにするために、既習のオリエントの文化と比較する発問を行う。 宗教と文学について著者や人物を紹介し、映画「トロイ」「王女メディア」等のパンフレットやホメロスの『オデュッセイア』(絵本)を回覧し、視覚的に時代の雰囲気を感じさせる。 ギリシア哲学の発展史を、自然を考察したオニア自然哲学→人間を研究したソフィスト哲学→普遍的ソフィスト哲学の三段階に分けて発展的に把握させる。 ソクラテスとプラトンの関係を示すために文庫本『ソクラテスの弁明』を回覧する。 歴史学や彫刻等のギリシア美術、さらにも数学・医学についても説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> オリエントの歴史に関する復習の発問を行い、既習の知識がよくなると、新しい理解や把握に役立てることができる。 <p>【知識・理解】 【思考・判断】</p>
まとめ 5分	1 中心テーマについての論述(120字程度)	<ul style="list-style-type: none"> 配付プリントのキ線以下で、中答欄を使って、中心テーマについて論述する。 提出し、評価を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> テーマと全体を有機的に結ばせる発問を行う。 提出された論述を読み、最も優れたものを次回配付するプリント裏面に印刷して紹介する。誤りは指摘して本人に返す。 	<ul style="list-style-type: none"> 集中して論述に取り組ませる。その際には自分ならではの表現方法にも留意する。 <p>【思考・判断】 【技能・表現】</p>